

日本鉄鋼協会記事

理 事 会

第1回理事会 開催日：4月4日・出席者：武田会長，ほか 54名。

1. 日本・ベネズエラシンポジウム開催の件

5月18日よりベネズエラにおいてシンポジウムが開催される予定で，大谷正康君（東北大選研所長）を団長とする代表団を派遣することを決定した。

2. 各支部活動状況報告

各支部より資料にもとづき報告がなされた。ある支部より補助金の増額要請があり，要望に沿うよう検討することになった。

編 集 委 員 会

第1回編集運営委員会 開催日：4月14日・出席者：田中委員長，ほか 12名。

1. 編集運営委員ならびに欧文会誌分科会主査交替についての報告が行われた。

2. 和文・欧文・講演大会の各分科会より報告がなされた。

第2回和文会誌分科会 開催日：4月11日・出席者：田中主査，ほか 15名。

1. 6件の論文審査報告がなされ，掲載決定4件，照会后掲載可1件，修正依頼1件であった。

2. 「鉄と鋼」第66年第9号（8月号）に，論文14件掲載決定した。

第2回欧文会誌分科会 開催日：4月18日・出席者：中村主査，ほか 9名。

1. 15件の論文について審査報告がなされ，掲載可5件，照会后掲載可8件，修正依頼2件であった。

2. 「鉄と鋼」以外の国内雑誌より，2件の研究論文3件の Technical Report 1件の Technical Feature，及び3件の Report を勧誘することとなった。

共 同 研 究 会

圧 延 理 論 部 会

第65回部会 開催日：3月13日，14日・出席者：岡本部会長，ほか 99名。

開催地：名古屋大学工学部

本部会は圧延理論に関する研究を発表して討論を行っている。第65回部会の研究発表をまとめると内容は以下のとおりである。

1. 冷間圧延に関するもの（含む潤滑）…………… 8件
2. 熱間圧延に関するもの…………… 5件
3. 条鋼・線材圧延に関するもの…………… 5件
4. 工場見学……………鉄鋼工学科の戸沢研究室見学

なお本部会には鉄鋼メーカーのみならず，大学・圧延設備・計装メーカーも参加して研究発表が行われる。

鋼 管 部 会

第26回経目無鋼管分科会 開催日：3月6日，7日・出席者：永井主査，ほか延べ 93名。

東京・日本鋼管・本社で開催された。

1. 第1日 熱間押出関係

(1) 共通議題「押出用素材の品質とコストダウンについて」

(2) 共通議題「冷間加工工具について」

上記2テーマに関しアンケート調査のまとめ発表と質疑応答が行われた。

2. 第2日目 マネスマン関係

(1) 共通議題「寸法精度について」

(2) 共通議題「ローリングスケジュールについて（素材関係）」

これら2件について，アンケート調査結果のまとめ発表と質疑応答が行われた。

また，両日共工場操業状況についての報告ならびに質疑が行われた。

第26回溶接鋼管分科会 開催日：3月13日，14日・出席者：田中部会長，ほか延べ 130名。

住金・大阪本社で開催された。

1. 第1日 電縫・鍛接管関係

次の2件の共通議題についてのまとめ発表および討議が行われた。

(1) 鍛接条件の鍛接強度におよぼす影響について（鍛接管）

(2) 歩留と稼働率について（電縫管）

2. 第2日 電弧管関係

2日目も，次の2件の共通議題について，まとめ発表と討議が行われた。

(1) パイプ外観，形状，寸法について（ストレートシーム）

(2) 製管能率について（スパイラル）

さらに，両日共工場操業についての報告ならびに質疑が行われた。

計 測 部 会

第74回部会 開催日：3月6日，7日・出席者：藤田部会長，ほか 132名。

横河電機製作所(株)にて開催した。

1. 3月6日，神田学士会館，3月7日，本社工場にて会議を行い，計 30 件の発表があつた。会議終了後，横河電機製作所本社工場の見学が行われた。

2. 本部会以降藤井部会長直属幹事は川口新部会長直属幹事と交替することとなった。

ISO/TC 事務局運営委員会

第4回運営委員会 開催日：4月9日・出席者：石原委員長ほか 16名。

1. ISO/MG 会議（ジュネーブ）出席報告等が行わ

れた。

- (1) Metal tubes ad hoc 会議
- (2) PLACO/TAG 設置の動き
- (3) TC 17 議長問題
2. 今後の事務局定例報告の程度が確認された。
3. 下記案件が承認された。
 - (1) 専門諮問部会部会長・青木朗氏の運営委員会委員への委嘱
 - (2) TC 17 総会準備委員会の設置
4. その他下記項目について意見交換が行われた
 - (1) TC 17/ SC 1 事務局の運営
 - (2) TC 17 事務局の増強

鉄鋼基礎共同研究会

高炉内反応部会

第 11 回部会 開催日：3月13日，14日。出席者：大森部会長，ほか 41 名。

1. 蔵王バイツにて，委員外参加者も含め，今後の本部会活動方針について討論が行われた。討論は以下の 5 WG にわかれ行われた。

- 1) 高炉数学モデル
- 2) 装入物のうごき
- 3) レースウェイ
- 4) スラグ・メタル反応
- 5) 将来の製鉄

2. 今後 2 年間の研究成果をまとめ英文で出版する予定である。

高温変形部会

第 14 回部会 開催日：3月25日。出席者：田村部会長，ほか 26 名。

1. 講演

- (1) SUS 304 の高温多軸応力下の塑性変形
- (2) Ni 及び Ni 基耐熱合金の高温高速変形
- (3) 動的再結晶組織の熱的安定性
- (4) 低炭素クロム系ステンレス鋼の高温変形能

2. 協議事項

- (1) 55年度は年 5 回部会を開催する。
- (2) シンポジウムを 1 回開催する。

3. 高温変形シンポジウム

翌 3 月 26 日に新丸ビル地下大会議室で当部会主催のシ

ンポジウムが開催された。8 名の講師により「制御圧延技術の基礎とその展開」に関する最近技術の講演が行われた。200 名を越す聴講者が参加して，盛況のうちに終了した。

第 2 回高温変形シンポジウム 開催日：3月26日。出席者：田村部会長，ほか 250 名。

開催場所：新丸ビル地下大会議室。

1. シンポジウムは「制御圧延技術の基礎とその展開」をテーマに，その理論的根拠と技術の応用・展開について基礎から将来の展望まで，7 題目の講演が行われた。会は 250 名を越す聴講者が集まり，講演に対して活発な討論が行われ，盛会裡に終了した。

<講演題目>

- (1) 挨拶
- (2) 高温変形(制御圧延)の基礎
- (3) 制御圧延における細粒化とその役割
- (4) 制御圧延における相変態挙動とその役割
- (5) 制御圧延における組織変化と変形抵抗
- (6) 二相域圧延による強靱性の向上と異方性
- (7) 中・高炭素鋼における制御圧延・制御冷却とその効果
- (8) 制御圧延の将来の展望

鉄鋼材料の摩耗部会

第 4 回部会 開催日：3月11日。出席者：木村部会長，ほか 21 名。

1. 場所：日本鉄鋼協会会議室

2. 議題

(1) 従来の研究についての勉強会として，次の発表とそれに関する討論が行われた。

「液体窒素中におけるオーステナイト鋼の摩耗」

(東北大，須藤)

「金属材料のすべり摩耗特性と摩擦面温度」

(大阪府立大，川本)

「熱間仕上圧延におけるロールの摩耗およびサーマルクラウンの解析」

(久保田，渡辺・北村)

「圧延ロールの摩耗に関する問題点」

(住金，平川・外山)

(2) 本部会においてとり上げるべき研究課題について討議が行われた。

正 誤 表

「鉄と鋼」66 (1980) 5, pp. 478~487 「環流式連続脱ガスに関するモデル実験とその解析」

上田 卓弥，古山 貞夫，中川 龍一

ページ	行	誤	正
480	右 2	$\{t - (h + nc)\} n_e - a \{t - (h + nc)\}$	$\times \{t - (h + nc)\} n_e - a \{n - (h + nc)\}$
480	右 9	$E(t) \times \mathcal{L}^{-1}\{W_2(s)\} =$	$E(t) = \mathcal{L}^{-1}\{W_2(s)\} =$
480	右 9	$\frac{v}{v_2} \delta(t - \theta_B) d \sum_{n=0}^{\infty} \frac{b^n}{n!}$	$\frac{v}{v_2} \delta(t - \theta_B) + d \sum_{n=0}^{\infty} \frac{b^n}{n!}$
480	右 10	$\{t - (H + nC)\} n_e - A \{t - (H + nC)\}$	$\times \{t - (H + nC)\} n_e - A \{t - (H + nC)\}$